

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2019/4/1~2019/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	IDWR. 21:8(2019)2-2	2019年2月27日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第8週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):宮城県1例(不明)、茨城県1例(不明)、東京都1例(不明)、神奈川県1例(鴨肉)、国内(都道府県不明)3例(ジビエ料理1例、牛肉1例、不明1例)、インド1例(不明)。
2	E型肝炎	IDWR. 21:9(2019)2-5	2019年3月6日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第9週に診断されたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):千葉県1例(不明)、愛知県1例(不明)、三重県1例(不明)、奈良県1例(猪肉・生の豚肉)、国内(都道府県不明)4例(豚レバー1例、輸血・血液製剤1例、不明2例)。また、2018年第9週から2019年第8週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):青森県1例(牛生レバー)、岩手県1例(不明)。
3	E型肝炎	IDWR. 21:15(2019)2-2	2019年4月17日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第15週に診断されたE型肝炎の報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):山形県1例(猪肉)、山口県1例(不明)、国内(都道府県不明)2例(鹿肉1例、豚レバー/焼肉1例)、カナダ1例(生の牛肉)、国内・国外不明1例(不明)。また、後天性免疫不全症候群の報告例は以下のとおりであった。感染地域:国内13例、タイ1例、ミャンマー1例、国外(国不明)1例、国内・国外不明1例。感染経路:性的接触14例(異性間2例、同性間10例、異性/同性間2例)、輸血1例(国外)、不明2例。
4	E型肝炎	IDWR. 21:19(2019)2-2	2019年5月15日集計分の感染症発生動向総覧によると、本邦において2019年第19週に診断されたE型肝炎の報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(半生の焼肉1例、焼肉/レバー1例)、東京都1例(牛肉)、長崎県1例(猪肉)、千葉県/福島県1例(馬刺し/豚レバー)、インド1例(不明)、国内・国外不明1例(ホルモン)。また、2018年第19週から2019年第18週までに診断されたものの報告が遅れたE型肝炎報告例は以下のとおりであった。感染地域(感染源):北海道2例(牛レバー/牡蠣1例、不明1例)、宮城県1例(不明)、東京都1例(不明)、新潟県1例(不明)。
5	E型肝炎	肝臓. 59(2018)497-500	日本国内において豚肉関連食品を感染源とした急性E型肝炎の症例が報告された。患者はE型肝炎発症前にブタの内臓を喫食し、患者から得られたE型肝炎ウイルス株は日本のブタで流行していた遺伝子型3bであったため、国内産豚肉関連食品がE型肝炎の感染源と結論付けられた。
6	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 24(2018)1926-1929	2016年10月から2018年1月までに採取された米国中西部のウシ由来のサンプル1525件を検査した結果、64件がインフルエンザC型ウイルス(ICV)陽性だった。これまでICVはヒトとブタから検出されているが、ウシへの感染については調べられていなかった。ICVの人畜共通感染性を示すデータは得られていないがヒト分離株のヌクレオチドとの同一性は97.1%であり、ICVの人畜共通感染性について詳細な研究の必要が示唆された。
7	インフルエンザ	Emerg Microbes Infect. 7(2018)87-97	2015年3月から2016年2月までの期間において、中国の6つの農場から収集した環境的標本、水、バイオエアロゾル及びブタの便、計396サンプル、さらに、3300頭のブタから採取した口内分泌物サンプルのうち、46サンプルの環境的標本、235 サンプルのブタ口内分泌物、23サンプルの水、20サンプルのバイオエアロゾル及び19サンプルの便で、qRT-PCRによるインフルエンザAウイルス(IAV)が陽性であった。ブタ生産業の環境においてIAVが遍在することが示唆され、本研究で採取した様々なサンプル間の関連性が示された。
8	インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="https://www.who.int/influenza/vaccines/virus/201809_zoonotic_vaccinavirusupdate.pdf">https://www.who.int/influenza/vaccines/virus/201809_zoonotic_vaccinavirusupdate.pdf</a>	2018年2月20日から2018年9月24日までに米国内でH1N2変異型インフルエンザウイルスのヒトへの感染が13例報告された。13例中12例は発症の前週にブタへの接触が確認された。1例はブタへの接触はないとされていることから、限局された範囲内でのヒト-ヒト間の感染があったと考えられた。1例を除きすべての症例が18歳未満であった。患者はすべて完全に回復している。
9	H1N1インフルエンザ	AASV. <a href="https://www.aasv.org/news/story.php?id=11419">https://www.aasv.org/news/story.php?id=11419</a>	メキシコにおけるブタインフルエンザA型ウイルスの進化から、ワクチン開発株を評価するため、59のウイルスゲノムの配列を決定し、5地域の株について抗原地図を作成した。その結果、遺伝的及び抗原的多様性が、メキシコ南東部で特に高いことを発見した。メキシコの他地域のヒト及びブタウイルスが繰り返し侵入したためである。また、ヒトからブタに広まった2つの異なるウイルス(パンデミックH1N1ウイルス及び季節性H3N2ウイルス)に由来するゲノムセグメントを有する、新型のH3N2ウイルスを同定した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/michigan-reports-first-ah1n1v-virus-infection-us-2019/	米国疾病管理予防センター(CDC)は、米国における2019年ではじめてのインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルス感染症がミシガン州で発生したと報告した。患者は65歳以上で、入院し回復した。ブタとの接触は報告されていないが、当該患者の感染源について調査中である。
11	狂犬病	ProMED-mail 20190327.6390272	ペンシルベニア州農業局は、Mercer Countyのウシ1頭において狂犬病ウイルス陽性所見が認められたことから、アラートを発令した。当該ウシには安楽死の処置がとられ、検査により狂犬病ウイルスが特定された。当該ウシに接触したヒト2例が治療を受けた。当該ウシに接触した可能性のある他のウシ19頭は、ワクチンを接種し120日間隔離する。
12	口蹄疫	ProMED-mail 20190306.6353216	口蹄疫ウイルスはこれまでの研究よりも、ブタにおいてははるかに早く感染することが、最新のNature Scientific reportsへ掲載された。当該研究では、感染の24時間後、発熱や水疱といった感染徴候を示す以前に、高頻度の接触伝播がみられた。
13	ウイルス性上気道感染	Pediatr Infect Dis J. (2018)	イラン北東部のBojnurdにおいて、ブタ-ボカウイルスによる初めてのヒト感染例1例が確認された。症状は咳や発熱であり、生理食塩液、ハーバルシロップ、アセトアミノフェンの投与により回復した。野生ブタの排泄物から感染した可能性が考えられた。
14	プリオン病	OIE Weekly Disease Information. 2018/10/19	2018年10月18日、スコットランド・アバディーンシャー州の1農場で、牛海綿状脳症(BSE)が確認された。当該ウシは5歳の雌牛で、農場内で死亡した後に発見された。原因不明で死亡したウシは、BSE検査のために剖検された。さらにWestern blot testの結果、当該ウシは古典型BSEであることが確認された。当該ウシは剖検により解体されたため食物連鎖には入らなかった。よって食品の安全性やヒトの健康への危険性はないと判断された。当該農場内の他の4頭のウシは、BSEの予防策として殺処分された。現在、感染経路を特定するために疫学調査が実施されている。
15	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report. 52(2018)185-190	2018年10月18日、スコットランド・アバディーンシャー州の1農場で、BSEが確認された。当該ウシは5歳の雌牛で、農場内で死亡した後に発見された。原因不明で死亡したウシは、BSE検査のために剖検された。さらにWestern blot testの結果、当該ウシは古典型BSEであることが確認された。当該ウシは剖検により解体されたため食物連鎖には入らなかった。よって食品の安全性やヒトの健康への危険性はないと判断された。当該農場内の他の4頭のウシは、BSEの予防策として殺処分された。現在、感染経路を特定するために疫学調査が実施されている。
16	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20181019.6099295	2018年10月18日、スコットランド・アバディーンシャー州の1農場で、BSEが確認された。当該ウシは5歳の雌牛で、農場内で死亡した後に発見された。原因不明で死亡したウシは、BSE検査のために剖検された。さらにWestern blot testの結果、当該ウシは古典型BSEであることが確認された。当該ウシは剖検により解体されたため食物連鎖には入らなかった。よって食品の安全性やヒトの健康への危険性はないと判断された。当該農場内の他の4頭のウシは、BSEの予防策として殺処分された。現在、感染経路を特定するために疫学調査が実施されている。
17	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20181023.6105255	2018年10月18日、スコットランド・アバディーンシャー州の1農場で、BSEが確認された。当該ウシは5歳の雌牛で、農場内で死亡した後に発見された。原因不明で死亡したウシは、BSE検査のために剖検された。さらにWestern blot testの結果、当該ウシは古典型BSEであることが確認された。当該ウシは剖検により解体されたため食物連鎖には入らなかった。よって食品の安全性やヒトの健康への危険性はないと判断された。当該農場内の他の4頭のウシは、BSEの予防策として殺処分された。現在、感染経路を特定するために疫学調査が実施されている。
18	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20181102.6124282	2018年10月18日、スコットランド・アバディーンシャー州の1農場で、BSEが確認された。当該ウシは5歳の雌牛で、農場内で死亡した後に発見された。原因不明で死亡したウシは、BSE検査のために剖検された。さらにWestern blot testの結果、当該ウシは古典型BSEであることが確認された。当該ウシは剖検により解体されたため食物連鎖には入らなかった。よって食品の安全性やヒトの健康への危険性はないと判断された。当該農場内の他の4頭のウシは、BSEの予防策として殺処分された。現在、感染経路を特定するために疫学調査が実施されている。
19	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/2/11	2019年1月31日、ポーランドでウシ1頭において、L型非定型BSEが確認された。国際獣疫事務局(OIE)陸生衛生動物規約により「非定型BSE」は、非常に低い発生率ですべてのウシ個体群において自然発生的に生じると考えられているため、BSEからは除外される。したがって、本件事象はポーランドの公式BSEリスク・ステータス評価に影響しない。
20	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190204.6294906	2019年1月31日、ポーランドでウシ1頭において、L型非定型BSEが確認された。OIE陸生衛生動物規約により「非定型BSE」は、非常に低い発生率ですべてのウシ個体群において自然発生的に生じると考えられているため、BSEからは除外される。したがって、本件事象はポーランドの公式BSEリスク・ステータス評価に影響しない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
21	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/2/22	2019年2月19日、スペインでウシ1頭においてH型非定型BSEが確認された。当該ウシはホルスタイン交雑種の雌牛であった。
22	レンサ球菌感染	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/streptococcus-suis-infections-thailand-10-deaths-first-three-months-95460/">http://outbreaknewstoday.com/streptococcus-suis-infections-thailand-10-deaths-first-three-months-95460/</a>	タイ保健省の疾病管理局は、ブタ連鎖球菌感染症の危険性と調理が不十分なブタ肉を食べることについて警告している。2019年の最初の3カ月間に、保健当局は10例の死者を含む50例のブタ連鎖球菌感染症の報告を受けた。
23	炭疽	ProMED-mail 20190111.6254248	現地衛生当局者が2019年1月10日に述べたところによると、タンザニア南西部Momba県Nzoka地区の住民78例が炭疽に罹患し、うち4例が死亡したことを確認した。74例は治療中である。
24	炭疽	ProMED-mail 20190214.6317268	オーストラリアのクイーンズランド州で炭疽菌に感染した可能性のあるウシが複数死亡しているとの報告があった。炭疽菌感染による死亡との確証まではつかめておらず、現時点では原因の特定に至っていない。当該家畜を保有している農場主は、汚染された飼料からの感染が考えられるとしている。現在、感染に至った経緯等詳細な調査が継続されている。
25	炭疽	ProMED-mail 20190228.6341783	ジンバブエのMutare農場刑務所で炭疽が発生し、ブタが死亡した。感染したブタは30日間の隔離を行い、他のすべてのブタに予防接種を実施した。
26	炭疽	ProMED-mail 20190527.6489777	2019年5月18日、レトのQemeで炭疽により死亡したウシの肉を喫食し、50例以上が炭疽を発病した。約55例が付近の診療所に搬送され、うち18例には予防薬が投与され治療中である。現在のところ、汚染肉を喫食し死亡した症例は報告されていない。
27	ウシ結核	BMC Infect Dis. 19(2019)39	2014年12月から2016年6月にエチオピア東部の特定地域の315頭のウシについて、ツベルクリン皮膚試験を用いてウシ結核の発生を評価した結果、推奨カットオフ>4mmでは、乳牛のウシ結核の全体的な有病率は20.3%(n = 64)であった。
28	ウシ結核	ProMED-mail 20181031.6122495	米国ウィスコンシン州のMaier Farms LLCのウシ3頭においてウシ結核が確認された。ウシが罹患していたウシ結核菌の株は、2015年にMaier Farms内の労働者に見られたものと同一で、労働者からウシへ感染した可能性も考えられた。
29	ウシ結核	ProMED-mail 20181107.6132360	米国ウィスコンシン州のMaier Farms LLCのウシ3頭においてウシ結核が確認された。ウシが罹患していたウシ結核菌の株は、2015年にMaier Farms内の労働者に見られたものと同一で、労働者からウシへ感染した可能性も考えられた。
30	ウシ結核	ProMED-mail 20181123.6158947	米国ウィスコンシン州のMaier Farms LLCのウシ3頭においてウシ結核が確認された。ウシが罹患していたウシ結核菌の株は、2015年にMaier Farms内の労働者に見られたものと同一で、労働者からウシへ感染した可能性も考えられた。
31	大腸菌性胃腸炎	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/colli/2018/o26-09-18/index.html">https://www.cdc.gov/colli/2018/o26-09-18/index.html</a>	米国コロラド州、フロリダ州、マサチューセッツ州及びテネシー州において、Cargill Meat solutions社の牛挽肉と関連した志賀毒素産生性大腸菌のヒトへの感染のアウトブレイクが報告された。
32	大腸菌性胃腸炎	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s0920-recalled-ground-beef.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s0920-recalled-ground-beef.html</a>	米国コロラド州、フロリダ州、マサチューセッツ州及びテネシー州において、Cargill Meat solutions社の牛挽肉と関連した志賀毒素産生性大腸菌のヒトへの感染のアウトブレイクが報告された。
33	サルモネラ症	ProMED-mail 20181004.6071195	米国アリゾナ州のJBS Tolleson社はサルモネラ・ニューポートに汚染された可能性のある牛挽肉のリコールを行っている。2018年8月5日～2018年9月6日で、16州において57例のサルモネラ感染症が確認されている。当該品摂取によるものか特定はされていないが、当該企業から流通している食肉のトレース及び回収が行われている。
34	サルモネラ症	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s1121-salmonella-update.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s1121-salmonella-update.html</a>	米国の複数の州で発生しているサルモネラ感染症に関連し、JBS tolleson社が生産した牛挽肉のリコールが行われている。2018年8月5日～2018年11月9日で、28州において333例のサルモネラ感染症が確認されている。うち、91例が入院した。死亡例は報告されていない。CDCは調査を継続しており、更なる情報が得られ次第アップデートする。
35	サルモネラ症	ProMED-mail 20190801.6600332	米国の複数の州で多剤耐性サルモネラ感染症のアウトブレイクが発生している。2019年7月31日時点で、感染者は33の州で計127例報告されている。情報入手が可能であった88例のうち26例(30%)が入院した。なお、死亡の報告はない。調査の結果、イヌ用おやつやブタ耳との接触がこのアウトブレイクの感染源である可能性が高いことが示された。CDCは調査を継続しており、更なる情報が得られ次第アップデートする。
36	エルシニア感染	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/denmark-reports-yersinia-enterocolitica-outbreak-93501/">http://outbreaknewstoday.com/denmark-reports-yersinia-enterocolitica-outbreak-93501/</a>	デンマークの保健当局は、 <i>Yersinia enterocolitica</i> 感染の発生を報告し、デンマーク国立血清学研究所が、原因を調査中である。2019年3月30日以降、男女合計18例が感染している。スウェーデンでも同様のアウトブレイクがみられ、デンマーク及びスウェーデンの当局が共同で調査を行っている。エルシニア症は、ほとんどの場合、 <i>Yersinia enterocolitica</i> で汚染された生又は加熱不足の豚肉を食べることによって引き起こされる。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	エルシニア感染	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/yersinia-enterocolitica-outbreak-investigated-sweden-26626/">http://outbreaknewstoday.com/yersinia-enterocolitica-outbreak-investigated-sweden-26626/</a>	スウェーデンの保健当局は、2019年3月以降、スウェーデン全土において <i>Yersinia enterocolitica</i> 感染が発生していると報告した。国内のほぼすべての地域で症例が報告されており、10地域で26例が確認されている。さらに30例が調査中である。エルシニア症の最も一般的な症状は下痢、発熱、腹痛で、通常1~3週間続く。細菌の宿主は、主にブタである。
38	ブルセラ症	ProMED-mail 20190128.6280591	米国ペンシルベニア州QuarryvilleのMiller's Biodiversity Farmで生産された、多剤耐性菌の感染に関連のある牛乳がアイオワ州で販売されていた。ブルセラ症の3例は当該農場の牛乳を摂取していることが特定された。ウシに投与されたワクチン株が牛乳内へ流入しヒトへの感染を招いたことが推測される。
39	ブルセラ症	CDC ホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/brucellosis/exposure/drug-resistant-brucellosis-linked-raw-milk.html">https://www.cdc.gov/brucellosis/exposure/drug-resistant-brucellosis-linked-raw-milk.html</a>	米国ペンシルベニア州QuarryvilleのMiller's Biodiversity Farmから購入した生乳を摂取したニューヨークの住民1例が、2018年11月にブルセラ症と診断された。同農場由来の牛乳サンプルからブルセラ属菌RB51株が検出された。RB51陽性の雌牛は搾乳牛群から隔離された。2019年1月22日の時点で、19州における人々が当該農場由来の生乳を購入または消費したと断定された。
40	ブルセラ症	Journal of Infection and Public Health. 12(2019)247-251	インド南部の養豚場の職員2名において、ブルセラ症の診断方法の一つである、ローズベンガルテストで陽性が確認され、ブタからヒトへのブルセラ症感染であることが示唆された。
41	ブルセラ症	Veterinary World. 11(2018)1171-1178	ナイジェリア東南部において、と畜場のウシやヤギにおけるブルセラ抗体の血清陽性率を調べたところ、ウシでは2.5%、ヤギでは4.1%が陽性であった。
42	レプトスピラ症	Ciencia Rural. 49:04 (2019) e20180965	ブラジル南部の養豚場におけるブタ胎児死亡に関連する可能性のある因子として、ブタサーコウイルス2(PCV2)、ブタバルボウイルス(PPV)及び病原性レプトスピラを調査した。3つの農場から、脳・肺・腎臓・肝臓及び心臓の断片をPCR分析のためにサンプリングした。調査した100サンプルのうち、87サンプルがPCV2陽性、68サンプルがPPV陽性、22サンプルが病原性レプトスピラ陽性であった。
43	レプトスピラ症	PLoS Negl Trop Dis. 10(2016)e0004405	フィジーにおけるレプトスピラ症伝播のリスク因子及び環境要因を特定するため、エコ疫学のアプローチを用いてレプトスピラ抗体の存在と関連する変数を疫学的に調査した。その結果、該当する変数は、男性、iTaukei民族的特性、村での居住、水の不足、屋外での労働、地方での居住、高い貧困率、主要な川から100 m未満での居住、生活圏でのブタの存在、家畜の飼育密度及び雨季の最大降雨量であった。
44	テニア症	Outbreak News Today. <a href="http://outbreaknewstoday.com/vietnam-pork-tapeworm-outbreak-affects-hundreds-children-bac-ninh-87616/">http://outbreaknewstoday.com/vietnam-pork-tapeworm-outbreak-affects-hundreds-children-bac-ninh-87616/</a>	有鉤条虫感染の発生は、ベトナム北部Bac Ninh省Thanh Khuong村の子供209名に影響を及ぼしている。先月末、寄生虫に感染している疑いのある豚肉が、学校の調理場で見つかったが、有鉤条虫の実際の発生源はまだ確認されていない。
45	テニア症	The Pig Site. <a href="https://thepigsite.com/news/2019/04/parasite-dna-found-in-4-4-percent-of-pigs-slaughtered-for-nairobi-pig-market">https://thepigsite.com/news/2019/04/parasite-dna-found-in-4-4-percent-of-pigs-slaughtered-for-nairobi-pig-market</a>	ケニアNairobiの豚肉市場向けに屠畜されたブタにおいて、テニア属の循環抗原が発見された。
46	感染	Acta Parasitologica. 63(2018)784-790	インドのマハラシュトラ州のナグプール及びムンバイ地域におけるブタ囊虫症の有病率の調査のため、屠殺体の解体前検査を行った。その結果、1000頭のうち3頭が有鉤条虫の囊胞に著しく冒されており、有病率は0.3%であった。
47	術後創感染	Indian J Orthop. 53(4)(2019)502-509	成人脊柱変形の治療に対する腰椎前外側椎体間固定術の有効性を15例の患者において調査したところ、良好な短期臨床及び放射線学的結果が得られた。なお、1例に感染を認め、デブリドマンを繰り返し行う2.5カ月の抗生物質療法を必要とした。